ひ　か　り　結　ぶ　ま　ち

かりや景観れぽーと

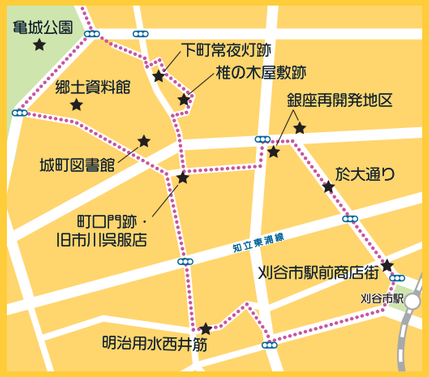
テーマ
写真を通して景観をとらえる

VOL.30

発行日：令和５年３月１日
発　行：刈谷市まちづくり推進課
ＴＥＬ：(0566)62-1022

令和4年（2022年）10月に実施した「かりや景観づくり講座 Photo×Town Watching」についてご紹介します。
今年度はプロ写真家の秋野 深（じん）氏を招き、「写真を通して景観をとらえる」をテーマに、カメラを持ってまち歩きを実施しました。

Photo × Town Watching



かりや景観づくり講座とは

市民の皆さんの景観形成に対する意識の向上と、景観まちづくりや、良好な景観の形成について考えてもらう機会として、平成15年（2003年）から実施しているものです。

他にもこんなに面白い！いろいろな観察の切り口

まちなかの“丸いモノ”に着目

“丸いモノ”を切り口にまちなかを観察してみると、様々なものを発見しました。

オブジェの丸

街灯デザインの丸

赤いポストの丸

擬宝珠の丸

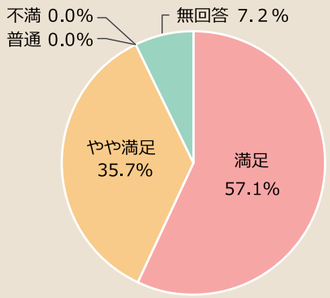
建物の“壁・材質”に着目

タイル・木材・石積み等の様々な材質があり、それぞれ建物の個性を生み出しています。

かりや景観づくり講座への参加者の声

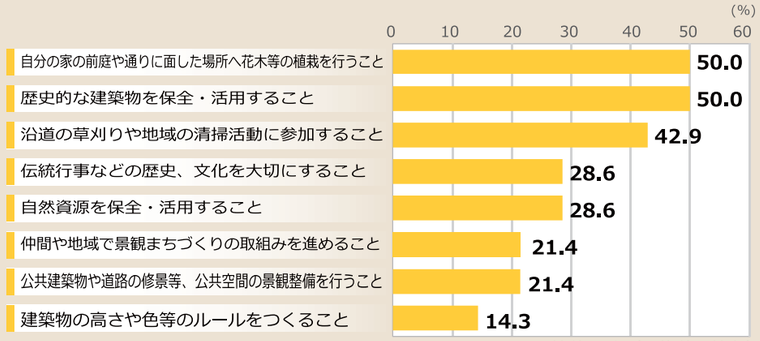
かりや景観づくり講座終了後、参加者の方にアンケートのご協力をいただきました。ここではその結果の一部をご紹介します。

Q1 講座の内容はいかがでしたか？



回答数14人

Q2 刈谷市の景観を良くするために必要だと思うこと。



回答数14人（※複数回答有）

Q3 参考になったことやご意見をお聞かせください。

- 普段通らない路地を通り、面白い風景を見つけることができました。
- テーマや切り口を決めて、まちを見ると今までと違う発見がありました。
- 写真をきっかけに、刈谷の中心市街地のまちなみを理解することができて良かったです。
- まちあるきをした対象地区は玄関先で草花を育てている住宅が多くありました。自分で出来る小さな取組みが、散策者の楽しみやまちの景観づくりにつながることを改めて認識しました。

景観講座 講師：秋野 深（じん） 氏（写真家）

観察と撮影のヒント

撮影の第一歩は「丁寧な観察」から

まち歩きにあたって、まちの景観や魅力を再発見するための観察のポイントについてお話頂きました。

無意識に見るのではなく、観察の切り口をもってみる

写真を撮る際には、何も見ないで無意識にシャッターボタンを押す人はいません。必ず対象をよく見て撮影しています。日常的に歩いている場所であっても、色や形など、切り口となるキーワードを持って観察することが第一歩です。生活感が強い場所、懐かしい感じがする場所など、雰囲気を切り口に観察しても面白いです。

広い視点と部分的な視点を両方もって、周囲を観察してみる

カメラのズームのように望遠・広角の視点を切り替えてみると様々なものに気づくことができます。1つの箇所を拡大してじっくりと見ることや、逆にまち全体を広く見る等、視点を変えて見ると新たな発見があります。

他の場所と比較することで、その場の景観の特徴を探してみる

旅行に行って、写真をたくさん撮るのは、日常風景とは違うものに面白さを感じるからではないでしょうか。まちなみや建物には、その土地の気候や風習・歴史文化の違いから特徴が現れていることがあります。まずは自分が住んでいる場所の風景と比較してみてください。景観の特徴をとらえるためには、他の場所と比較してみると分かりやすいです。

講師
秋野　深（あきの・じん）

https://www.jinakino.com/

福岡県出身。会社勤務を経て写真家・執筆家に転身。シルクロードを中心に海外・国内で、自然風景、建築物、人々の生活や文化を撮り続け、写真展や講演を通じて、国や地域の魅力を伝える活動を続けている。講演、旅のエッセイの連載、写真教室主宰、旅行会社の撮影ツアー講師、観光 PR や国際文化交流分野での地方自治体の地域活性化事業など多方面で活動。島根県益田市にて景観啓発事業に5年間参画。2022 年静岡県マイクロ・アート・ワーケーションの参加アーティストに選出。

景観まちあるき in 亀城公園 界隈

景観講座後、亀城公園から刈谷市駅にかけてまちを観察しながら歩きました。

※掲載写真は講座で撮影した写真を使用しています

亀城公園の景観

桜が満開となる春をはじめ、秋や冬の時期は木の奥の建物が見える等、季節によって変わる景観が魅力的です。

旧城下町の歴史的な景観

刈谷城下町であったこのエリアには古い蔵や町家などが一部残っており、歴史的な風情を感じます。

道路の景観

電線類が地中化され、舗装のカラーや街路灯等のデザインが統一された通りは、すっきりとした都市的な景観が魅力的です。

商店街の景観

建物のファサード（正面部分）の色合いや、店舗前の緑化により、歩道空間との調和がとれています。

水路の景観

建物や草花など周辺に見えるものによって景観のイメージがつくられます。

住宅地の景観

家の前庭を緑化したり、オブジェを設置したりすることで様々な彩りが加わります。

緑に溶け込む事業所の景観

ガラスの外壁には亀城公園の緑が映し出され、大きな建物である圧迫感を感じさせないデザインとなっています。

公共施設の景観

郷土資料館の特徴的なレンガ壁は、この通りの景観のシンボルとなっています。

秋野先生からの講評

今回歩いたエリアは、歴史ある建物とマンションなど新しい建物が混ざっていることが特徴的でした。これは、様々な景観的要素が含まれていると言えます。

日頃、歩き慣れた道や住み慣れたまちでも観察の切り口をもって見ることで、新たな発見が生まれます。今回は秋でしたが、冬や春など、季節が変われば、また違った景色を見ることができます。

皆さんも是非、カメラを片手に景観を感じてみてください。